

「無私無欲」

～あなたは負けていませんか？～

使徒20：32～35

昨日はふるさと創生プロジェクトの農業体験（稲刈り）をしてきました。改めて食について見直すことができました。そしてこのNPO団体の活動の中で一番大切なことは私たちクリスチャンと出会うことです。私たちは出会う人々にとって希望の光とならなくてははいけません。私たちが教会に来たのはどこかでクリスチャンに出会い、その人に魅力があったからではないかと思えます。クリスチャンは「クルシムチャン（苦しむちゃん）」でははいけません。私たちはもう一度自分の使命を確認し果たしているのか吟味していきたいと思えます。（使徒20：32～35）ここに出てくる「受けるより与えるほうが幸いである」という言葉は私たちがとても大切にしている言葉となっております。ふるさと創生プロジェクトもこの言葉がテーマとなっております。私たちはこの言葉の通り、受ける者から与える者へと変わっているのでしょうか。私たちの心にキリストが中心にない場合、周りの人のニーズに応えるよりもニーズに応えてもらうようになっていないでしょうか。人が私に何をしてくれるのかが人生の中心となっております。好き嫌いというものの判断は自分自身となっております。自分が受け入れる事ができないことを言う人は嫌いになっていないのでしょうか。そしてバロメータとして私たちは確認したいことがあります。それは何か怒る時に、自分のために怒っているのか相手のために怒っているのかです。相手にとって幸せにならない行動をとってしまうことに対して怒るのであれば、その人が良くなるために怒っているので大丈夫です。それはイエスキリストが憤っているのと同じです。しかし自分自身のために怒っているのであれば、その思いはよくありません。私たちは神に祈り願います。しかし私たちは祈りの応えが自分の願った通りの方法でならないと神に怒ります。怒ることはないにしても不平や不満を感じるようになってしまうのです。神が主権を持っているのではなく、自分が神を利用しているような感覚に陥ってしまうのは間違っています。私たちは神の思い（御心）がこの地上になるために召されました。しかし自分の願いが地上になることは自己中心の思いから出てきます。今日読んだ箇所はパウロの遺言ともいえる箇所です。パウロが言っていることは聖書の御言葉に向き合えば私たちの自己中心がなくなっていくといっているのです。私たちは日常の中で御言葉にふれているのでしょうか。それをしていかないと神が創造した私自身に戻することはできません。神の望みは私たちの創造した姿に変えられるようになることです。今日のタイトルは「無私無欲」です。人はこの事を実践することは難しいかもしれません。私たちには自分自身があり、欲があるからです。そして私たちは健全でしょうか。欲がなければ、健全に過ごすことができます。もし私たちが健全であれば、「受けるより与えることは幸いです。」という言葉は当たり前に行えることとなるのです。私たちが隣人を愛せよということを実践しているのであれば、隣人に対して欲を持たずに接することができるようになるのです。私たちが遣わされている場所でこれが実行できれば、私たちの周りは変わっていきます。周りに流していくために先に召されたのです。私たちに出会っていく中で、今まで接した人たちとは何かが違うと思ってもらえるようになります。教会が愛をもってもてなす場所となり、私たち自身ももてなす人となれば、私たちを通して日本は変わっていくと信じます。2000年前、イエスキリストが無私無欲の人生を歩み、十字架への道を辿っていきました。それによって全人類の救いを完成させました。同様にパウロも自分の過去を無にしました。約束されていた地位や名誉、富はすべてイエスとの出会いによって塵あくととなりました。私たちも過去の自分を捨てて180度変わった歩みをしているのですが、だんだん元の姿に戻ってしまうことがあるのです。日曜日のメッセージはその部分に光が当てられ、もう一度変わってはならない部分を変わらないようにしなければなりません。それをしていくと与え続ける人生になっていくのです。その時、私たちは自我との戦いがあります。私たちは虚栄に生きることをやめ、本物にならなければいけません。私たちは神に創られたのですからなおさらです。しかし私たちは自分を大きく見せてしまうのでしょうか。その時、自分が間違っていることを認め自分のルールを捨てようとするなら神は助けてくださいます。そうすれば、パウロが変わったように私たちも迫害する人生から人を導く人生へと変えられるのです。そのためには神の言葉を聴かないといけません。自我があると聞けません。すなわちキリストと共に生きていないこととなります。聴く人は自分の変えてはならないところと、変えるところを理解しています。そのために**①御言葉につながる**（使徒20：32、Ⅱコリ4：7～10）私たちは窮地に追い込まれても天を見上げることができるのです。私たちが天を見上げ、神の言葉を聴くなら変わることができるのです。御言葉に身を委ねていきましょう。**②与えることにいのちを使う**。与えることにいのちを使ったのはイエスキリストです。ガリラヤ湖と死海の関係です。ガリラヤ湖のように流していれば、いのちのある湖になります。しかし与えない人生では死海のようにいのちが維持できない場所になってしまうのです。私たちは自分の人生をかけて分け与えているのでしょうか。自分のために使う人生はそれだけで終わってしまいます。与える人生になりましょう。**③人の弱さの助けとなる**。（Ⅰヨハネ5：1～5）神を愛しているなら隣人を愛することができます。イエスキリストの生涯は人に与え続けた生涯でした。これこそ、私たちが見習うべき歩みです。そしてその歩みは順風満帆ではありませんでした。敵対するものがありました、迫害するものもあります。しかしその中であつても勝利していったのです。勝つとは打ち負かすことではありません。自分を無にして人に与え続けることです。その歩みはこの世にあって光となり、多くの人に希望を与えることができる歩みです。私たちに任されていることを果たしていきましょう。（要約者：平澤 一浩）